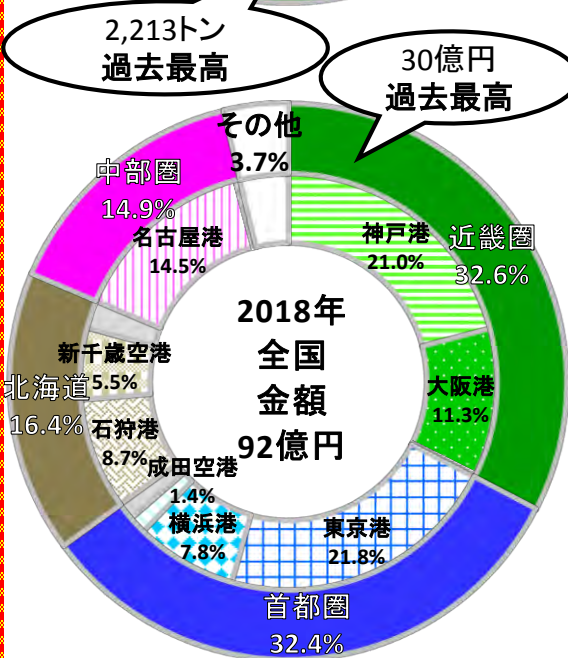
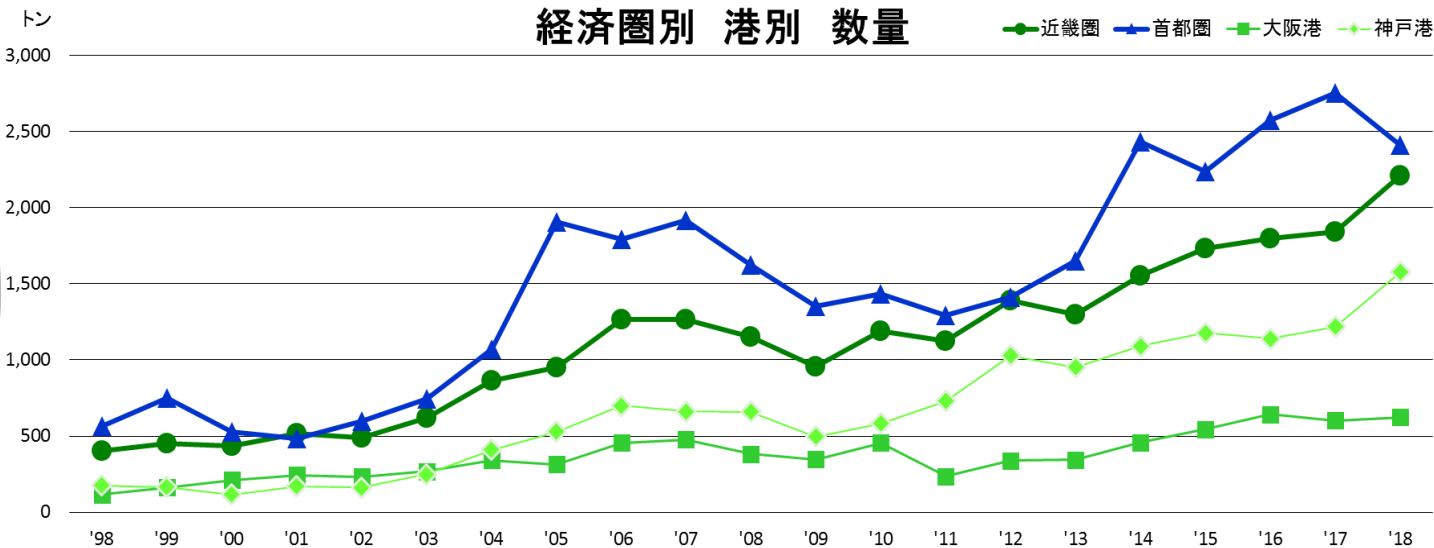
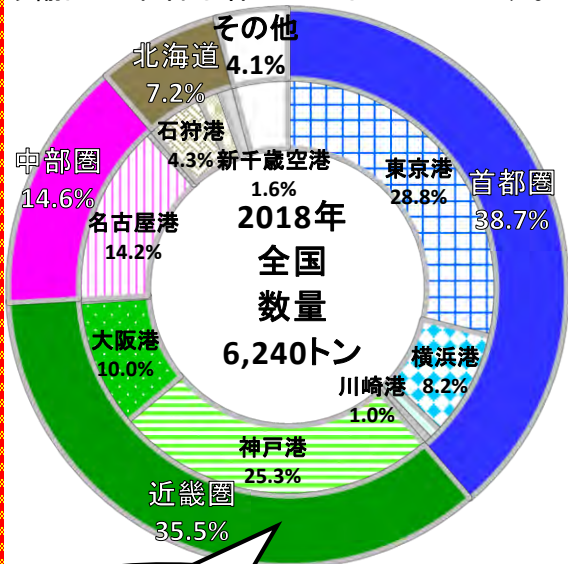


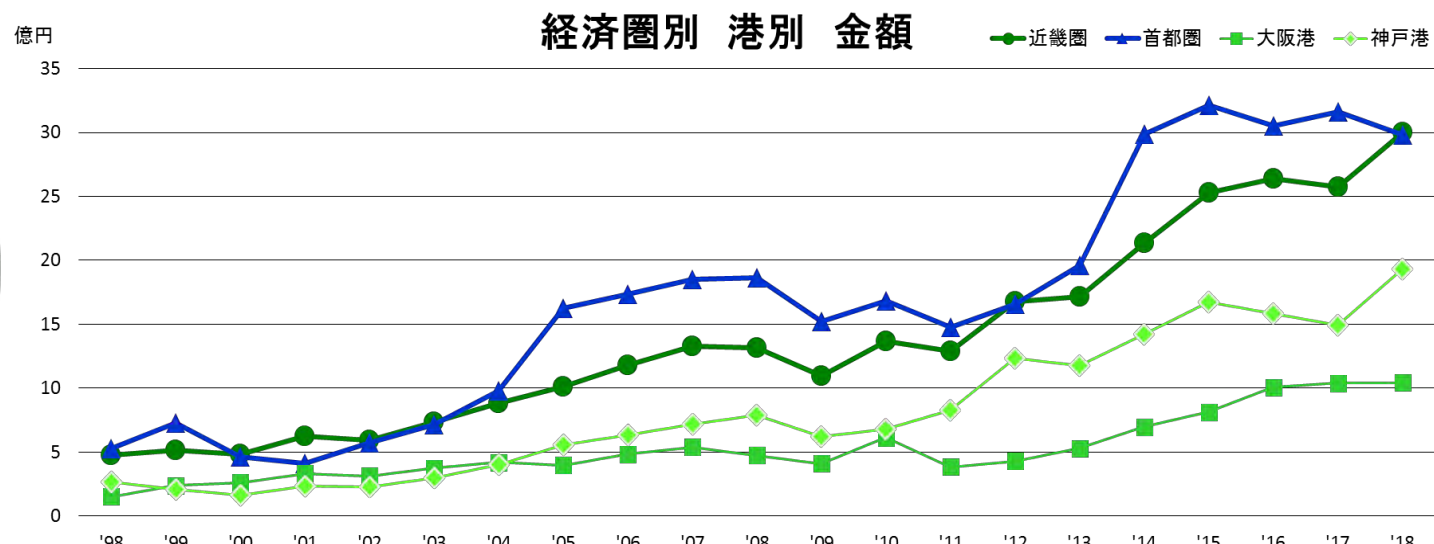
【経済圏別 港別 数量・金額】

経済圏別港別では近畿圏が数量・金額ともに2018年に**過去最高**を更新しました。金額においては**経済圏別第1位**となり、2017年は少し減少したものの2012年以降プラスの傾向を示しています。

業界によると、日本産チョコレートは安心・安全・高品質でおいしいとの評価を受け、海外市場でも受け入れられており、その流れからチョコレートを扱う輸出の業者も増えているとのことです。



近畿圏や首都圏の輸出数量・金額の割合が高いのは、近辺にチョコレート生産工場が多くあるためです。さらに、大阪港では金額が過去最高となり、5年連続で更新しています。

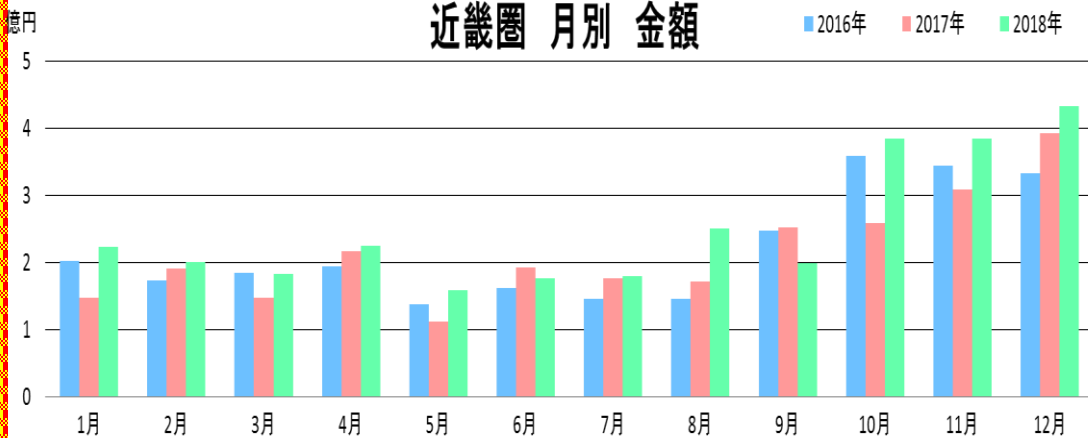


【月別 金額推移】

10～12月に輸出額が増える傾向にあります。

日本と同様に世界でも冬場にチョコレートの需要は増えるようで、オフィスや家庭の中に親しみやすく生活になじんだチョコレートとして、日本産チョコレートは受け入れられているようです。アジア圏では旧正月やハロウィン、クリスマスなどイベントに向けた増加もあるとのこと。

夏場の輸出には冷蔵コンテナの使用が必須で、品質を保つ上で温度管理の苦労もあります。



(注1) 本特集におけるチョコレートは

統計品目番号1806.31、1806.32、1806.90に属するチョコレート菓子、または塊状、板状、棒状の2KG以下のチョコレートを集計したものです。

(注2) 本特集における経済圏は以下の都府県を含むものです。

近畿圏：大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県

首都圏：東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県

中部圏：愛知、岐阜、三重、長野、静岡の5県

九州圏：福岡、山口、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の9県

(注3) 本資料における過去最高は1988年以降の比較によります。

(注4) 2017年までは確定値、2018年は速報値。

(注5) 本資料を他に転載するときは大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。

●本資料を他に転載するときは、大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。

●本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課まで。(電話06-6966-5385)

大阪税関ホームページ(<http://www.customs.go.jp/osaka/>)

●輸出相手国●

1998年
20か国
(アジア10か国)

2018年
41か国
(アジア16か国)

業界によると

海外の展示会への出展、試食や景品提供の販売促進活動など地道な努力と工夫を重ね、最近ではチョコレートを含む日本食品を展開できる国・店舗が増えてきているようです。

チョコレートにおいてもMade in Japanクオリティへの引き合いは各国から年々増加しており、商品では中にビスケットやコーンフレークが入ったザクザクした食感を楽しめるもの、ナッツ入り、グミ入りのチョコレートが人気とのこと。日本規格のものをそのまま輸出しているそうです。

おわりに

インバウンドの追い風も受けながら、まずはアジア圏で地盤を固め、さらには新規開拓、商品アイテムの増加、自社ブランドの認知を目指していくという企業の声に、勢いと自信を感じました。